平成 20 年 12 月期　第 3 四半期財務・業績の概況

平成 20 年 10 月 23 日

上場会社名　藤田観光株式会社　　上場取引所　東証一部・大証一部
コード番号　9722　　ＵＲＬ　http://www.fujita-kanko.co.jp/
代表者　（役職名）代表取締役社長　　（氏名）末澤　和政
問合せ先責任者
（役職名）常務取締役ｺｰﾎﾟﾚｰﾄｾﾝﾀｰ担当　（氏名）菊永　福芳　ＴＥＬ(03)5981－7723
（役職名）取締役ｺｰﾎﾟﾚｰﾄｾﾝﾀｰ担当　（氏名）中曽根一夫　ＴＥＬ(03)5981－7703

（百万円未満切捨て）

１．平成20年12月期第3四半期の連結業績（平成20年１月１日～平成20年９月30日）

(1)　連結経営成績　　(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期（当期）純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
20 年 12 月期第 3 四半期	49,000	△5.6	1,057	△60.4	1,060	△59.1	133	△89.9
19 年 12 月期第 3 四半期	51,908	2.0	2,669	25.9	2,595	46.3	1,316	△52.4
19 年 12 月期	71,171	－	5,245	－	5,018	－	2,280	－

	１株当たり四半期（当期）純利益	潜在株式調整後１株当たり四半期（当期）純利益
	円　銭	円　銭
20 年 12 月期第 3 四半期	1　15	－
19 年 12 月期第 3 四半期	11　31	－
19 年 12 月期	19　60	－

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	１株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円　銭
20 年 12 月期第 3 四半期	95,096	24,392	25.3	206　90
19 年 12 月期第 3 四半期	107,620	32,593	30.0	277　27
19 年 12 月期	98,620	27,993	28.1	237　71

(3) 連結キャッシュ・フローの状況

	営業活動によるキャッシュ・フロー	投資活動によるキャッシュ・フロー	財務活動によるキャッシュ・フロー	現金及び現金同等物期末残高
	百万円	百万円	百万円	百万円
20 年 12 月期第 3 四半期	2,670	△2,519	729	4,383
19 年 12 月期第 3 四半期	4,311	496	△2,269	5,240
19 年 12 月期	7,112	△1,802	△4,510	3,502

２．平成20年12月期の連結業績予想（平成20年１月１日～平成20年12月31日）

(%表示は、対前期)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	１株当たり当期純利益
	百万円　　%	百万円　　%	百万円　　%	百万円　　%	円　銭
通　　期	68,000　△4.5	3,000　△42.8	2,900　△42.2	700　△69.3	6　01

３．その他

(1) 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）　：　有

連結除外　１社、㈱秋田ワシントンホテルサービス

(2) 会計処理の方法における簡便な方法の採用の有無　：　有

(3) 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更の有無　：　有

※業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

上記予想には、本資料発表日現在の将来に関する前提・見通し・計画に基づく予測が含まれて降ります。世界経済・競合状況、為替の変動等にかかわるリスクや不確定要因により実際の業績が記載の予想数値と異なる可能性があります。

業績予想の前提条件その他の関連する事項については、6ページ【定性的情報・財務諸表等】3、連結業績予想に関する定性的情報をご覧ください。

【定性的情報・財務諸表等】

1、 連結経営成績に関する定性的情報

①全般的概況

戦後最長の景気回復を続けてきたわが国経済は、今年に入り、米国のサブプライム問題に端を発した世界的な信用収縮や景気の悪化が深刻化してきております。輸出企業の業績悪化を始め、原油価格上昇等による原材料価格高騰もあって、企業収益が急速に悪化し、一部の高級品や嗜好品を中心に比較的堅調であった個人消費についても、物価上昇に伴う実質所得の減少や先行き不安から、消費控えの傾向が見られ、旅行、外食などのサービス消費についても低調となりました。このような事業環境の中にあって、当社グループの業績は、とりわけその先行きにおいて非常に厳しいものとなってきております。

当第 3 四半期までの売上は、前年同期比 2,907 百万円の減収となりました。この減収の主因は、当社グループが将来への飛躍のために実施した「意図的な減収」（影響額 3,069 百万円）によるものであります。具体的には、秋葉原ワシントンホテルを建替えのために本年 3 月に営業休止し、また老朽化した地方のワシントンホテルの一部は世代交代を進めるために営業を終了しました。またコア事業に経営資源を集中するために一部の周辺事業（有料道路事業、貸しビル業）の整理も行いました。

これらの特殊要因を除いた既存施設全体の売上については、前年同期を上回るものとなりました。当中間期までの傾向と同様、庭園の魅力アップや「和」空間の提供といった特徴を打ち出した椿山荘が大きく増収となる一方、欧米の景気減速の影響を受けたラグジュアリーホテルや、レジャー消費控えが見られるリゾート事業が減収となりました。

一方、利益面につきましては宿泊を始めとする減収部門の影響が大きく、また営業休止した秋葉原ワシントンホテルの影響（△206 百万円）や、法人税法改正による減価償却費の増加（253 百万円）、既存施設における原材料費や水道光熱費の原価増もあり、経常利益は前年同期比 1,534 百万円の減益となりました。

業績の概要は以下のとおりです。

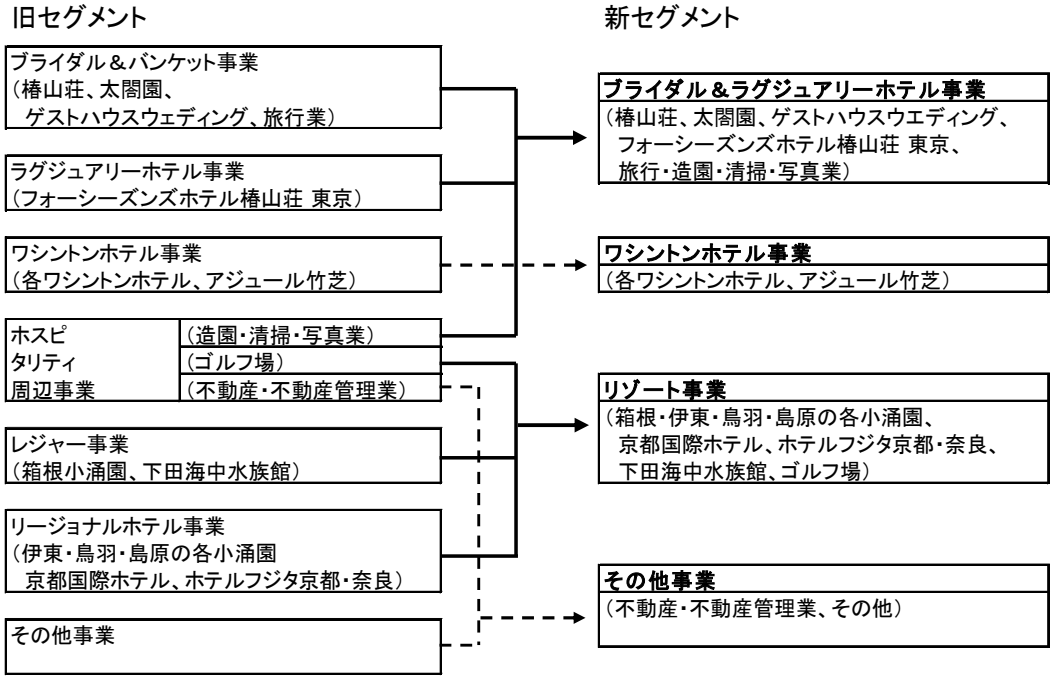
（当第 3 四半期（平成 20 年 1 月～9 月））　　（金額単位：百万円）

	当第 3 四半期	対前年同期比	対前年増減率	対年間予想進捗
売上高	49,000	△2,907	△5.6%	71.2%
営業利益	1,057	△1,611	△60.4%	21.6%
経常利益	1,060	△1,534	△59.1%	22.3%
当期利益	133	△1,183	△89.9%	7.0%

※　対年間予想進捗は当初予想（4 月 24 日時点）に対する進捗です

②セグメント別の概況

当連結会計期間期首より事業の種類別セグメントの区分を次のように変更しており、前期の数値については新セグメント区分で集計した上で表示しております。



≪ブライダル＆ラグジュアリーホテル事業≫

（金額単位：百万円、人員：千名）

	売上高実績	対前年同期比	増減率	利用人員実績	対前年同期比	増減率	利用単価（円）	対前年同期比	増減率
婚礼部門	6,933	690	11.1%	173	8	5.0%	40,060	2,185	5.8%
宴会部門	3,540	302	9.4%	371	19	5.4%	9,532	342	3.7%
ﾚｽﾄﾗﾝ部門	2,754	△ 354	△11.4%	543	△ 93	△14.6%	5,069	185	3.8%
宿泊部門	1,635	△ 282	△14.7%	69	△ 7	△10.1%	23,370	△ 1,273	△5.2%
その他（消去含む）	4,292	△ 130	△2.9%	－	－	－	－	－	－
合計	19,157	226	1.2%	1,158	△ 73	△6.0%	16,543	1,172	7.6%

＊ 利用単価は単純合算をﾍﾞｰｽに算出しています

婚礼部門および宴会部門は極めて好調でありました。とりわけ宴会場、ロビー、庭園等の改装効果が出た椿山荘を中心に、利用人員数、利用単価とも前年を上回り、売上高は大きく増加しました。その増収幅は中間期よりもさらに拡大しております。レストラン部門については椿山荘の外部店舗（大丸椿山荘）の営業終了、施設内の一部レストランの業態変更等の影響により前期比減収となりました。

一方宿泊部門（フォーシーズンズホテル椿山荘 東京）については、欧米の景気悪化により日本を訪れる外国人が減少したことによって稼働率が悪化、一人当たり単価も下落し、前年同期比で減収となりました。

これらの結果事業全体の売上は、婚礼の増収効果によって前年同期比で増収となりましたが、減価償却費の増加や原価の高騰によって営業利益は前年同期比190百万円減益の91百万円となりました。

≪ワシントンホテル事業≫

（金額単位：百万円、人員：千名）

	売上高実績	対前年同期比	増減率	利用人員実績	対前年同期比	増減率	利用単価（円）	対前年同期比	増減率
宿泊部門	13,199	△ 1,705	△11.4%	1,873	△ 259	△12.2%	7,045	58	0.8%
ﾚｽﾄﾗﾝ部門	3,010	△ 582	△16.2%	1,461	△ 435	△22.9%	2,060	166	8.7%
宴会部門	1,690	△ 93	△5.2%	228	△ 29	△11.5%	7,413	493	7.1%
その他（消去含む）	1,290	△ 181	△12.3%	－	－	－	－	－	－
合計	19,191	△ 2,563	△11.8%	3,563	△ 724	△16.9%	5,386	312	6.2%

＊ 利用単価は単純合算をﾍﾞｰｽに算出しています

世代交代を進めているワシントンホテル事業では、営業終了に伴う一過性の減収が2,676百万円あったため、既存部分では前年同期比増収となりました。新しい札幌・銀座のホテルでは居住性、セキュリティーを高めたレディースフロアの設置が女性客の獲得につながるなど好調を維持しています。またホテルアジュール竹芝では婚礼が好調でした。

営業利益は、コスト上昇による採算悪化の他、秋葉原ワシントンホテルの営業終了による減益影響が大きく、前年同期比564百万円減益の766百万円となりました。

なお、札幌・銀座の両ホテルはワシントンホテルよりワンランク上位というコンセプトを明確にするため10月1日をもってブランド名を「ホテルグレイスリー」へ変更し、また10月16日には「ホテルグレイスー田町」を新規開業しております。

≪リゾート事業≫

（金額単位：百万円、人員：千名）

	売上高実績	対前年同期比	増減率	利用人員実績	対前年同期比	増減率	利用単価（円）	対前年同期比	増減率
ﾘｿﾞｰﾄﾎﾃﾙ部門	6,992	△ 60	△0.9%	1,196	11	1.0%	5,844	△ 107	△1.8%
日帰り・ﾚｼﾞｬｰ部門	3,457	△ 270	△7.3%	930	△ 36	△3.8%	3,714	△ 138	△3.6%
その他（消去含む）	207	△ 122	△37.1%	－	－	－	－	－	－
合計	10,657	△ 453	△4.1%	2,127	△ 25	△1.2%	5,009	△ 152	△2.9%

＊ 利用単価は単純合算をﾍﾞｰｽに算出しています

景気低迷を受けた個人のレジャー消費の節約傾向、またガソリン高によるマイカー利用の減少など、リゾート事業は総じて苦戦を強いられました。日帰り・レジャー部門（箱根ユネッサン、ゴルフ場、水族館）では特に利用人員数が減少したことで、入場料収入だけでなくその付帯収入も減少しました。

その他部門の減収は主に有料道路事業「芦ノ湖スカイライン」を売却したことによる影響（△126 百万円）であります。

コスト面については、箱根小涌園の新しいコンピューターシステム関連費用の増加（40 百万円）や減価償却費の増加などにより、事業全体の営業利益は前年同期比で 744 百万円減益の 272 百万円となりました。

≪その他事業≫

（金額単位：百万円）

	売上高 実績	対前年 同期比	増減率
藤田ｸﾞﾘｰﾝ・ｻｰﾋﾞｽ㈱	1,347	△ 157	△10.5%
不動産事業	171	△ 66	△27.8%
その他（消去含む）	214	△ 55	△20.5%
合計	1,733	△ 279	△13.9%

藤田グリーン・サービス㈱は、一部物件の不動産管理業務の受託が終了したことにより、不動産管理収入が大きく減少しました。また不動産事業についても貸しビル業の終了の影響で減収となりました。

これらの結果、事業全体の売上は前年同期比 279 百万円の減収となりました。

営業利益は前年同期比 111 百万円減益の 110 百万円の損失となりました。

③営業外損益ならびに経常利益

第 3 四半期までにおける営業外損益については、受取配当金の増加と支払利息の減少によって金融収支が前年同期と比較して 18 百万円増加した一方で、持分法投資損失が 24 百万円減少したことで、営業外収支は前年同期よりやや改善し、損益ほぼ同程度となりました。この結果、当第 3 四半期の経常利益は、前年同期比△1,534 百万円（△59.1%）となる 1,060 百万円となりました。

④特別損益ならびに四半期純利益

当第 3 四半期までにおける特別損失として、今期営業を終了したホテルの原状回復費用を始めとする「閉鎖に伴う特別損失」を 149 百万円計上した他、今期会計方針を変更して新たに計上することとした「ワシントンカード」のポイント債務のうちの過年度分の一括計上 100 百万円、一部の遊休土地等の減損損失 144 百万円など、合計で 470 百万円を計上しました。

これらの結果、当第 3 四半期の四半期純利益は 133 百万円となりました。

2、 連結財政状態に関する定性的情報

①資産・負債の状況

総資産は前連結会計年度末に比べて 3,524 百万円減少し 95,096 百万円となりました。減少の最大要因は、株式市況の大幅な下落により保有投資有価証券の時価が大きく下落したことであり、「投資有価証券」が 4,637 百万円減少すると共に、純資産の部における「その他有価証券評価差額金」も 3,134 百万円減少し、含み益の減少を受けて「投資その他の資産」の「繰延税金資産」が 1,793 百万円増加しております。

また、非連結子会社に対する引当済みの短期貸付金を償却したことにより、流動資産の「その他」および「貸倒引当金」が減少しております。

②連結キャッシュ・フローの状況

≪営業活動によるキャッシュ・フロー≫

当第 3 四半期までの営業活動によるキャッシュ・フローは 2,670 百万円のキャッシュ・インとなり、前年同期比では営業利益の前期比減益（1,611 百万円）並みの 1,641 百万円の減少となりました。

≪投資活動によるキャッシュ・フロー≫

当第 3 四半期までの投資活動によるキャッシュ・フローは 2,519 百万円のキャッシュ・アウトとなりました。設備投資には前期同期に比べて 3 割増しの 2,191 百万円を投下しております。なお固定資産売却によるキャッシュ・イン（1,782 百万円）があった前年同期と比較すると投資活動によるキャッシュ・フローは前年同期比 3,015 百万円のキャッシュ・アウトとなりました。

≪財務活動によるキャッシュ・フロー≫

当第 3 四半期までの財務活動によるキャッシュ・フローは 729 百万円のキャッシュ・インとなりました。配当金として 583 百万円を支出した一方、借入金として 1,316 百万円のキャッシュ・インがあったことによるものであります。

3、連結業績予想に関する定性的情報

当社を取り巻く事業環境は、景気の悪化からより厳しいものとなってきております。特に欧米を始めとする外国人宿泊客の減少が顕著となっている他、今後は国内においても法人顧客の宴会・宿泊利用の減少や個人のレジャー消費控えが本格化するものと思われます。

こうした事業環境の悪化を踏まえて、通期の売上高は前回に比べ約 8 億円の減少を予想しております。利益についても、売上減少や売上構成変化の影響に加え、原油高などによる水道光熱費等の費用の上昇も続いていることから前回予想に比べ、営業利益は約 19 億円、経常利益は約 18.5 億円、当期純利益は約 12 億円の減少を見込んでおります。なお、業績予想につきましては同日発表の「平成 20 年 12 月期　業績予想の修正に関するお知らせ」についてもご参照ください。

4、その他

⑴ 期中における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

連結除外　㈱秋田ワシントンホテルサービス

⑵ 会計処理の方法における簡便的な方法の採用

連結会社の個別財務諸表の税金費用については、当年度の見積実効税率を用いて計算しております。また持分法適用会社については、概算決算数値を取り込んでおります。

⑶ 最近連結会計年度からの会計処理の方法の変更

1、事業の種類別セグメントの区分を変更しております。

なお、損益に与える影響はありません。

2、ポイント債務に対しポイント引当金を計上しております。

期首におけるポイント債務 100 百万円を特別損失に計上しております。この変更により、従来の方法に比べ税金等調整前四半期純利益は 100 百万円減少しております。

5、（要約）四半期連結財務諸表

(1)　（要約）四半期連結貸借対照表

	前第3四半期末 (平成19年９月30日)	当第3四半期末 (平成20年９月30日)	対前年 同期比		前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 (平成19年12月31日)
区分	金額 (百万円)	金額 (百万円)	増減 (百万円)	増減率 (%)	金額 (百万円)
(資産の部)					
Ⅰ　流動資産					
現金及び預金	5,240	4,383	△856	△16.3	3,502
受取手形及び売掛金	3,819	3,493	△325	△8.5	3,944
有価証券	1	1	－	－	1
たな卸資産	483	527	44	9.3	618
繰延税金資産	931	302	△628	△67.5	421
その他	3,675	2,065	△1,610	△43.8	3,846
貸倒引当金	△1,942	△37	1,904	－	△1,954
流動資産合計	12,208	10,735	△1,472	△12.1	10,378
Ⅱ　固定資産					
1　有形固定資産					
建物及び構築物	42,466	42,380	△85	△0.2	42,956
工具・器具・備品	2,997	2,842	△155	△5.2	2,865
その他	697	666	△30	△4.4	691
土地	10,155	10,027	△128	△1.3	10,142
コース勘定	3,107	3,107	－	－	3,107
建設仮勘定	284	39	△245	△86.2	10
有形固定資産合計	59,709	59,063	△645	△1.1	59,774
2　無形固定資産					
ソフトウェア	134	132	△2	△1.5	119
その他	144	132	△11	△8.1	145
無形固定資産合計	279	265	△13	△4.9	265
3　投資その他の資産					
投資有価証券	27,441	13,865	△13,575	△49.5	18,503
長期貸付金	243	－	△243	△100.0	10
差入保証金	7,484	6,770	△713	△9.5	7,469
繰延税金資産	11	3,791	3,779	－	1,997
その他	242	603	360	148.2	220
貸倒引当金	△0	－	0	－	△0
投資その他の資産合計	35,423	25,030	△10,392	△29.3	28,202
固定資産合計	95,411	84,360	△11,051	△11.6	88,241
資産合計	107,620	95,096	△12,524	△11.6	98,620

	前第3四半期末 （平成19年９月30日）	当第3四半期末 （平成20年９月30日）	対前年 同期比		前連結会計年度の 要約連結貸借対照表 （平成19年12月31日）
区分	金額 （百万円）	金額 （百万円）	増減 （百万円）	増減率 (%)	金額 （百万円）
（負債の部）					
Ⅰ　流動負債					
支払手形及び買掛金	1,159	1,127	△32	△2.8	1,663
短期借入金	13,523	15,114	1,590	11.8	10,601
１年内に返済期限の到来する長期借入金	7,594	6,651	△943	△12.4	7,877
未払法人税等	678	49	△629	△92.8	327
未払消費税等	337	185	△151	△45.0	350
賞与引当金	620	745	124	20.1	218
役員賞与引当金	43	30	△13	△30.7	43
ポイント引当金	－	100	100	－	－
その他	7,318	6,639	△679	△9.3	7,153
流動負債合計	31,278	30,643	△634	△2.0	28,236
Ⅱ　固定負債					
長期借入金	17,157	15,591	△1,566	△9.1	17,560
退職給付引当金	6,740	6,733	△6	△0.1	6,832
役員退職引当金	140	176	35	25.0	162
会員預り保証金	16,434	16,112	△322	△2.0	16,275
その他	3,275	1,446	△1,828	△55.8	1,559
固定負債合計	43,748	40,059	△3,688	△8.4	42,390
負債合計	75,026	70,703	△4,322	△5.8	70,627
（純資産の部）					
Ⅰ　株主資本					
資本金	12,081	12,081	－	－	12,081
資本剰余金	5,869	5,874	5	0.1	5,872
利益剰余金	7,256	7,772	515	7.1	8,220
自己株式	△2,330	△2,341	△10	－	△2,334
株主資本合計	22,877	23,387	509	2.2	23,840
Ⅱ　評価・換算差額等					
その他有価証券評価差額金	9,391	689	△8,701	△92.7	3,824
評価・換算差額等合計	9,391	689	△8,701	△92.7	3,824
Ⅲ　少数株主持分	324	314	△9	△3.0	328
純資産合計	32,593	24,392	△8,201	△25.2	27,993
負債純資産合計	107,620	95,096	△12,524	△11.6	98,620

(2)　（要約）四半期連結損益計算書

	前第３四半期 （自　平成19年１月１日 至　平成19年９月30日）	当第３四半期 （自　平成20年１月１日 至　平成20年９月30日）	対前年同期比		前連結会計年度の 要約連結損益計算書 （自　平成19年１月１日 至　平成19年12月31日）
区分	金額 （百万円）	金額 （百万円）	増減 （百万円）	増減率 (%)	金額 （百万円）
Ⅰ　売上高	51,908	49,000	△2,907	△5.6	71,171
Ⅱ　売上原価	47,055	45,519	△1,535	△3.3	62,975
売上総利益	4,852	3,480	△1,371	△28.3	8,196
Ⅲ　販売費及び一般管理費	2,182	2,422	239	11.0	2,950
営業利益	2,669	1,057	△1,611	△60.4	5,245
Ⅳ　営業外収益					
受取利息	0	0	△0	△7.2	0
受取配当金	334	344	10	3.1	359
その他	237	289	51	21.7	310
営業外収益合計	572	633	61	10.8	670
Ⅴ　営業外費用					
支払利息	505	497	△7	△1.5	670
持分法による投資損失	36	12	△24	△67.5	43
その他	104	121	17	16.8	183
営業外費用合計	646	631	△15	△2.3	898
経常利益	2,595	1,060	△1,534	△59.1	5,018
Ⅵ　特別利益					
固定資産売却益	536	－	△536	△100.0	544
その他	9	15	5	56.8	16
特別利益合計	545	15	△530	△97.1	560
Ⅶ　特別損失					
減損損失	224	144	△80	△35.8	419
ポイント引当金繰入額	－	100	100	－	－
建物解体・原状回復費用	－	85	85	－	110
撤退に伴う違約金	－	33	33	－	235
固定資産除却損	32	6	△26	△80.1	529
投資有価証券評価損	－	－	－	－	43
本社・本部移転費用	16	－	△16	△100.0	16
その他	156	100	△55	△35.7	184
特別損失合計	429	470	41	9.6	1,538
税金等調整前四半期(当期)純利益	2,712	605	△2,106	△77.7	4,039
税金費用	1,379	483	△895	△64.9	1,738
少数株主利益	16	－	△16	△100.0	20
少数株主損失	－	11	11	－	－
四半期(当期)純利益	1,316	133	△1,183	△89.9	2,280

(3)　四半期連結株主資本等変動計算書

前第３四半期(自　平成 19 年１月１日　至　平成 19 年９月 30 日)　（百万円）

	株主資本					評価・換算差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		
平成18年12月31日残高	12,081	5,868	6,522	△2,307	22,165	6,740	313	29,218
四半期間中の変動額								
剰余金の配当			△582		△582			△582
四半期純利益			1,316		1,316			1,316
自己株式の取得				△22	△ 22			△22
自己株式の処分		0			0			0
株主資本以外の項目の四半期間中の変動額（純額）						2,650	11	2,662
四半期間中の変動額合計	－	0	734	△22	712	2,650	11	3,375
平成19年９月30日残高	12,081	5,869	7,256	△2,330	22,877	9,391	324	32,593

当第３四半期(自　平成 20 年１月１日　至　平成 20 年９月 30 日)　（百万円）

	株主資本					評価・換算差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		
平成19年12月31日残高	12,081	5,872	8,220	△2,334	23,840	3,824	328	27,993
四半期間中の変動額								
剰余金の配当			△ 582		△ 582			△ 582
四半期純利益			133		133			133
自己株式の取得				△ 19	△ 19			△ 19
自己株式の処分		2		13	15			15
株主資本以外の項目の四半期間中の変動額（純額）						△ 3,134	△ 13	△3,148
四半期間中の変動額合計	－	2	△ 448	△ 6	△ 452	△ 3,134	△ 13	△3,601
平成20年９月30日残高	12,081	5,874	7,772	△2,341	23,387	689	314	24,392

前連結会計年度(自　平成 19 年１月１日　至　平成 19 年 12 月 31 日)　（百万円）

	株主資本					評価・換算差額等	少数株主持分	純資産合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券評価差額金		
平成18年12月31日残高	12,081	5,868	6,522	△2,307	22,165	6,740	313	29,218
連結会計年度中の変動額								
剰余金の配当			△582		△582			△ 582
当期純利益			2,280		2,280			2,280
自己株式の取得				△35	△35			△ 35
自己株式の処分		3		8	12			12
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）						△2,916	15	△2,900
連結会計年度中の変動額合計	－	3	1,698	△26	1,675	△2,916	15	△1,225
平成19年12月31日残高	12,081	5,872	8,220	△2,334	23,840	3,824	328	27,993

(4)　四半期連結キャッシュ・フロー計算書

	前第3四半期 （自　平成19年１月１日 至　平成19年９月30日）	当第3四半期 （自　平成20年１月１日 至　平成20年９月30日）	対前年同期比	前連結会計年度の要約連結キャッシュ・フロー計算書 （自　平成19年１月１日 至　平成19年12月31日）
区分	金額 （百万円）	金額 （百万円）	増減 （百万円）	金額 （百万円）
Ⅰ　営業活動によるキャッシュ・フロー				
税金等調整前四半期(当期)純利益	2,712	605	△2,106	4,039
減価償却費	2,407	2,490	82	3,223
減損損失	224	144	△80	419
貸倒引当金の減少額	△24	△37	△12	△12
受取利息及び受取配当金	△334	△344	△10	△359
支払利息	505	497	△7	670
為替差益	△2	△1	0	△2
持分法による投資損失	36	12	△24	43
有形固定資産売却益	△536	―	536	△544
有形固定資産売却損	4	1	△3	4
有形固定資産除却損	82	52	△30	580
関係会社株式評価損	―	―	―	43
売上債権の減少額	260	450	190	134
たな卸資産の増減額	110	90	△20	△24
仕入債務の減少額	△683	△535	147	△180
退職給付引当金の増減額	6	△98	△105	98
負ののれんの償却額	△4	△4	―	△5
ポイント引当金の増加額	―	100	100	―
役員退職引当金の増減額	△130	13	144	△109
未払消費税の増減額	41	△165	△206	55
賞与引当金の増加額	453	526	73	42
役員賞与引当金の減少額	△43	△13	30	△34
その他の支出	△56	△446	△390	△112
小計	5,030	3,338	△1,692	7,971
利息及び配当金の受取額	334	344	10	359
利息の支払額	△503	△489	14	△673
法人税等の支払額	△549	△522	26	△544
営業活動によるキャッシュ・フロー	4,311	2,670	△1,641	7,112

	前第3四半期 （自　平成19年１月１日 至　平成19年９月30日）	当第3四半期 （自　平成20年１月１日 至　平成20年９月30日）	対前年同期比	前連結会計年度の要約連結キャッシュ・フロー計算書 （自　平成19年１月１日 至　平成19年12月31日）
区分	金額 （百万円）	金額 （百万円）	増減 （百万円）	金額 （百万円）
Ⅱ　投資活動によるキャッシュ・フロー				
有形及び無形固定資産の取得による支出	△1,604	△2,191	△586	△3,489
有形及び無形固定資産の売却による収入	1,782	3	△1,779	1,804
投資有価証券の取得による支出	―	△749	△749	△431
貸付金の回収による収入	0	98	98	0
差入保証金の差入による支出	△3	△3	△0	△4
差入保証金の返還による収入	423	702	278	440
その他の投資活動による支出	△102	△379	△277	△122
投資活動によるキャッシュ・フロー	496	△2,519	△3,015	△1,802
Ⅲ　財務活動によるキャッシュ・フロー				
短期借入金の増減額	2,277	4,512	2,235	△633
長期借入れによる収入	2,000	3,050	1,050	4,800
長期借入金の返済による支出	△5,942	△6,246	△303	△8,067
自己株式の売却による収入	2	15	13	12
自己株式の取得による支出	△24	△19	4	△35
配当金の支払額	△581	△581	△0	△581
少数株主への配当金の支払額	△1	△1	△0	△1
その他の財務活動による支出	―	―	―	△3
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,269	729	2,999	△4,510
Ⅳ　現金及び現金同等物に係る換算差額	2	1	△0	2
Ⅴ　現金及び現金同等物の増加額	2,539	881	△1,658	801
Ⅵ　現金及び現金同等物の期首残高	2,700	3,502	801	2,700
Ⅶ　現金及び現金同等物の期末残高	5,240	4,383	△856	3,502

(5)　セグメント情報

【事業の種類別セグメント情報】

前第３四半期（自　平成 19 年１月１日　至　平成 19 年９月 30 日）

	ブライダル&ラグジュアリーホテル事業（百万円）	ワシントンホテル事業（百万円）	リゾート事業（百万円）	その他事業（百万円）	計（百万円）	消去又は全社（百万円）	連結（百万円）
売上高							
1. 外部顧客に対する売上高	17,529	21,575	11,085	1,717	51,908	－	51,908
2. セグメント間の内部売上高又は振替高	1,401	179	25	295	1,901	(1,901)	－
計	18,930	21,755	11,110	2,013	53,809	(1,901)	51,908
営業費用	18,647	20,423	10,093	2,012	51,178	(1,939)	49,238
営業利益	282	1,331	1,017	0	2,631	38	2,669

当第３四半期（自　平成 20 年１月１日　至　平成 20 年９月 30 日）

	ブライダル&ラグジュアリーホテル事業（百万円）	ワシントンホテル事業（百万円）	リゾート事業（百万円）	その他事業（百万円）	計（百万円）	消去又は全社（百万円）	連結（百万円）
売上高							
1. 外部顧客に対する売上高	17,877	19,000	10,638	1,483	49,000	－	49,000
2. セグメント間の内部売上高又は振替高	1,279	191	18	249	1,739	(1,739)	－
計	19,157	19,191	10,657	1,733	50,740	(1,739)	49,000
営業費用	19,065	18,425	10,384	1,844	49,719	(1,777)	47,942
営業利益	91	766	272	△110	1,020	37	1,057

前連結会計年度（自　平成 19 年１月１日　至　平成 19 年 12 月 31 日）

	ブライダル&ラグジュアリーホテル事業（百万円）	ワシントンホテル事業（百万円）	リゾート事業（百万円）	その他事業（百万円）	計（百万円）	消去又は全社（百万円）	連結（百万円）
売上高							
1. 外部顧客に対する売上高	25,194	28,920	14,836	2,219	71,171	－	71,171
2. セグメント間の内部売上高又は振替高	1,885	259	33	390	2,569	(2,569)	－
計	27,080	29,179	14,870	2,610	73,741	(2,569)	71,171
営業費用	25,300	27,142	13,448	2,657	68,548	(2,622)	65,925
営業利益	1,780	2,036	1,422	△46	5,192	53	5,245

【所在地別セグメント情報】

在外子会社がないため、該当事項はありません。

【海外売上高】

海外売上高がないため、該当事項はありません。